

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0493600027		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームポラーノの杜		
所在地	宮城県気仙沼市所沢201-1		
自己評価作成日	平成29年11月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

再建・移転からまもなく3年となります。利用者様から積極的に「お手伝いはないですか」と声を掛けて下さり、一緒の作業や買い物に出掛けるなど、一日一日を大切に穏やかに過ごして頂けるよう職員は支援に努めています。隣接するぼらんデイサービスからはボランティア慰問の案内を頂いて出掛ける、合同で流しそうめんやリングオ狩りを行うなど姉妹施設ならではの交流もあります。「共に歩みよりよりそう 願いに共感し叶えたい」という独自の理念を持ち、職員は利用者様の話を傾聴し希望を叶えたいと、気持ちに寄り添った支援を心掛けています。代表者は職員各人のキャリアアップやメンタル面に配慮した働きやすい環境の整備や資格取得への意欲向上に努めています。また認知症サポーター養成講座や災害公営住宅内の高齢者総合相談室の運営など地域への貢献にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

震災から7年目を迎え、介護職員の不足が深刻化している中で法人代表は職場環境の整備を積極的に行い人員が確保されている。新卒2名を採用し、地元紙に掲載され職員の励みとなった。職員は内外研修に参加し、スキルアップを図っている。ホームでは、入居者の希望で「好きな本を買いたい」「ラーメンを食べたい」等の思いを叶える支援をし、理念の実践に努めている。管理者を始め職員が笑顔を大切に日々寄り添うケアを実施し、安心で安全なホームを目指して。笑顔のある生活は、食事中や行事の写真で窺われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホームポラーノの杜**)「ユニット名 _____」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念をネーム裏に携帯し、いつでも読めるようにしており月1回のミーティング等で唱和して再確認を行っている。また、勉強会の時間を利用して振り返りを年2回程行ない、ケアの統一を図っている。	ホームの理念「共に歩み よりそう 願いに共感し叶えたい」に添って、一緒に外出し楽しく食事を取る。入居者・家族・職員が笑顔が絶えない日々を送れる等を模造紙に書き、玄関に貼り確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民へ積極的に声掛けや挨拶を行っている。ホームで行事を行う際は案内を配るなど地域とのつながりを持てるようにしている。2か月に1回、地域の美容院の方がボランティアに来て下さっている。	近所の方々に散歩時に挨拶したり、りんご狩りで取ったりりんごをお裾分けする等、新興住宅の中で協力関係を築く努力をしている。管理者は、地域に向けて「認知症サポーター養成講座」の講師を勤めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト研修を受講した職員が認知症サポーター養成講座の講師を務めている。要請があればいつでも開催できる状態にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催ができるよう努めている。開催の際は行政担当者、利用者様・家族様、地域住民を招き現状の報告と意見交換を行っている。	年6回開催し、包括の職員が毎回参加し他施設の情報やアドバイス等もらっている。メンバーからの情報で参加した行事で入居者の笑顔の写真が飾ってある。地域住民との交流の持ち方等、話し合いをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険についてや生活保護について不明な点があれば相談している。また法人は市介護サービス法人連絡協議会の事務局を担当し、市と一体となって地域ケア、災害協定等の課題に取り組んでいる。	介護報酬の確認や生活保護者の家族への連絡等を相談し、助言を得ている。市主催の高齢者の「今すぐ出来るレクリエーション」「排泄介助」「認知症介護基礎」の各研修に参加し、サービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとしており、日中は自由に出入りできるようにしている。散歩や外に出ての活動機会を設け職員で話し合いながら支援している。家族様へもその都度、ご説明を差し上げ安心して頂けるよう取り組んでいる。	勉強会を通して、行動を制限したり、言葉使い「待って」や命令口調、声のトーン等に気を付けている。身支度をして玄関で靴を履き替える等帰宅願望の方は、草取りや散歩、ドライブに行き気分転換を図り支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し職員間で虐待防止についての周知徹底を行っている。言葉遣いにも注意しケアに当たっている。日々のケアでも声掛けや関わり方について話し合い、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様はいないが外部の研修機会があれば参加するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当法人は入居申し込みの窓口を設けており担当者が入居前の見学を提案し丁寧に説明している。入居時についても契約書や重要事項説明書を用いて時間をかけ説明し了承頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。日頃から面会や電話連絡の際に本人の様子をお伝えし家族様の要望等も伺いながら、実践やケアプランに反映させている。	家族より「転ばないように過ごして欲しい」との要望で外出の機会を設けたり、体操等を行い下腿筋力の低下を予防している。何か仕事をしたい方は家事の手伝い等お願いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングには代表者も出席し職員の意見に耳を傾けている。また早急に対応が必要な提案や意見は管理者を通じて代表者に報告し対応している。	浴槽の安全対策に、簡易手摺りの設置や寝たきり入居者の褥そう予防に、自動エアマットの購入等職員の気づきが反映された。資格試験への支援や子育て職員の勤務時間の配慮も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の女性職員の労働時間短縮や体調面の考慮など職員個々の状況を把握し働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促している。また勉強会、ミーティングを通してホーム内での伝達講習も行っている。介護福祉士、介護支援専門員、介護員初任者研修の受講料の補助を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は宮城県グループホーム協議会や気仙沼市介護サービス法人連絡協議会、行政の研修に参加できる機会を設けて同業者との交流を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み窓口の担当者が要望や心配事を伺い安心頂けるような関係作りに努めている。職員も利用者様とゆっくりと会話ができる時間を設けられるよう努め信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から時間をかけて伺っている。家族様の話を聞き労いながら、不安を取り除くような声掛けに努めている。相談内容や介護の悩みは記録に残し、入居時に全職員が把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様だけでなくボランティアの支援や金銭管理のサービス等の検討も行っている。入居判定会議を行い代表者・管理者・入居相談窓口の担当者が話し合い必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持って過ごして頂くよう努めている。本人が笑顔になる方法を考え話を伺ったり信頼関係が作れるよう努力している。共同で暮らしていくという意識を常に持つことを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に特変等あればその都度連絡を取るようになっている。面会に来やすいよう環境整備に努め、面会時には直近の様子を伝えたり写真を一緒に眺めて頂くようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様へは知人等に入居したことを隠さず周囲へ話して頂くよう声掛けしている。職員は馴染みの食堂に外食に出掛ける機会を作るよう努めている。誕生日会や敬老会への参加の声掛けにも努めている。	馴染みのそば屋に行き、女将に声を掛けてくる。銀行に行き自分の通帳からお金を引き出す。家族の葬儀に出席する等関係継続の支援をしている。父・母の日に家族より洋服や花のプレゼントがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体状況や気分に合わせてレク活動を提案したり、行事の中で利用者様同士が交流できるように努めている。声掛けや傾聴を繰り返しながら良好な関係を保てるよう見守り支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も手紙、年賀状のやりとりを行うなど関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や趣味等、思いに寄り添いながら傾聴し、職員間で検討して意向を把握している。気持ちを伝えられない方については本人の立場になって考え、表情や行動から思いを汲み取るよう努めている。	日常の会話、風呂、散歩など何気ない会話から把握している。好きな本を読みたい思いを聞き一緒に買いに行ったり、料理が得意な方は家事の手伝いをして貰うなど、その人らしく生活出来るように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や趣味、嗜好などの情報を家族様に聞く機会を作り情報収集に努めている。入居後も本人や家族様から頂いた情報をもとに馴染みの生活が続けられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理や気分等の把握に努め活動の提案や声掛けを行っている。生活記録や排泄チェック表を活用し、現状の把握を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様への意向確認や話し合いの時間を設け、介護計画を作成するよう努めている。ミーティングや日々の業務の中でもモニタリングや話し合いを行いプランに反映させるよう努めている。	本人家族の意見を参考に職員間で話し合いプランを作成している。6か月に1回見直し、モニタリングは3か月に1回実施している。転倒しないで過ごして欲しいの要望で歩く機会を作り、プランに反映した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を活用して変化に気が付けるようにしている。記録から情報共有を行ったり、生活記録の気づきから職員会議等で取り上げケアについて話し合う機会を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子から想いを汲み取りニーズを把握するよう努めている。本人の言葉やその時々思いを考えながら、地域のお祭りへの参加、選挙の投票等の希望があれば検討し個別支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを積極的に受け入れている。OT、PTに教えて頂いた体操や運動を実践し心身共に楽しく生活して頂けるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者様がかかりつけ医を受診している。職員が受診に付き添う際は受診時は主治医に経過を報告し、受診後には家族様へ受診報告を行っている。職員は受診記録に記載し周知している。	家族や職員が状態とバイタル表を持参し受診している。結果は受診記録に記載し職員で共有している。日常の健康管理は隣接のデイサービスの看護師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護や生活上の注意点等を確認したり話し合いを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供ができるよう努めている。可能な限りお見舞いに伺うなどして情報を把握している。地域医療連携室や各病院の医療相談員との連絡や調整を行い退院後も安心してホームで過ごせるよう備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りの指針を説明し、本人や家族様の意向をできるだけ早い時期に確認するよう努めている。	入居時、事業所が行う看取りに関する指針を示し、本人・家族の同意を得ている。現在2名の方が重度化ケアを実施している。終末期を迎えた時に家族の希望で協力医の紹介状を得て、病院に入院になる事が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変に備えマニュアルの整備を行なっている。また救命救急講習を定期的に受講するよう法人内で取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の立会いのもと避難訓練を年2回行い避難方法等を確認している。ご近所様への呼びかけや非常食を常備し災害に備えている。防火設備についても専門業者が定期的に点検している。	夜間想定で、地域住民に声かけし実施している。消防署員より、トイレ・浴室に人がいないかの確認をすることや、夜間想定は最初に非常ベルを押した後は速やかに初期消火、避難誘導をする等講評があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉遣いの他に声のトーンや場所等も考慮しながら対応している。排泄の失敗等の際も自尊心を傷付けないよう配慮し声掛けしている。	お手伝いをして貰った時、「ありがとう」と感謝の言葉を伝えている。失禁時は、周りの人に解らないように、さりげなく支援している。行事などに参加の時、お気に入りの服を選び、鏡を見てお化粧して出掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や表情を傾聴、確認しながら個々の状況に合わせ希望を伺えるよう努めている。職員はわかりやすい言葉遣いで声掛けするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを確認しながら希望に沿えるよう努めている。要望に対し難しいこと等あれば代替案を提案するなど、話し合いを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と一緒に洋服を選んだり離床の際は髪を整えるよう気を配っている。行事や外出の際には家族様の協力を得ながら服を選んだり、化粧の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好表を用いた好き嫌いの把握や代替品等、個々に合わせた食事を提供している。誕生日にはリクエストメニューを取り入れ献立を考えている。食器拭きや野菜、果物の皮むきをお手伝い頂くこともある。	地元の食材や入居者の好みを取り入れて料理し、職員も食事介助をしながら一緒に食べている。誕生日には、本人の希望で赤飯を取り入れたり、好きなそばを職員と一緒に出掛け食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定の結果を考慮し食事量を調整している。また毎食の食事量や嗜好を確認し提供するように努めている。食事形態の検討を職員会議等で定期的に行いケアに繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行っている。歯磨きが難しい場合はうがいの促しや口腔内の清拭等を支援しケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の時間の把握、定期的な排泄誘導の声掛け等を行っている。利用者様の出すサインに気が付けるよう職員間で情報共有を心掛けている。	自立でトイレに行く方は6名である。車椅子のブレーキにさわったり、立ち上がったたりする入居者のサインに合わせた声掛け(外出前後・食前)等で、トイレ誘導している。夜間は個別に対応し安眠にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前のお茶の時間に牛乳や乳酸菌飲料の提供を行っている。ヨーグルトや薩摩芋等を使用したおやつを提供したり、水分の摂取を勧めている。排泄チェック表を活用し便秘の状態を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は定めず、利用者様の気分や体調に合わせて入浴の声掛けを行っている。入浴剤の使用等、気持ちよく入浴できる環境を整えている。入浴が難しい場合はシャワー浴、足浴等の部分浴を支援している。	希望を聞き週2～3回入浴の支援である。拒む方には時間を置いたり職員を替える等している。自宅で家族と一緒に入浴していた事、田んぼで体が黒くなりながら農作業をしたこと等職員と話しながら入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせた活動の提案や午睡の声掛けを行うよう努めている。居室の温度管理など過ごしやすい環境を整えるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診対応の記録にお薬説明書のコピーを添付し回覧している。確実に服薬ができるよう医師等に薬の形状等を相談している。服薬拒否がある場合は時間を置いたり、職員を交代する等の対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをお願いした際は必ずお礼や労いの言葉を掛けている。外出支援や買い物に出ておやつを選んで頂く機会を設けている。自ら言葉を発することが難しい方にはこちらから話し掛け、表情等を確認している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様からの協力も得ながら馴染みの場所へ出掛けられるよう支援している。体調や気分を見ながら外出支援を検討し実践している。また外食の機会を設けるよう努めている。	天気の良い日は、ホームの周辺を散歩(車椅子の方も)している。重度の方は、ウッドデッキに出たり、流しそうめんは外気浴できる場所と一緒に参加している。季節に応じて初詣、花見、紅葉などに出掛け楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせ一緒に買い物へ出掛けている。金銭の所持についても家族様にご理解を頂きお小遣い程度を自己管理して頂いている。所持金については定期的に職員と確認し紛失防止に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際には対応している。また、本人から希望を聞きながら年賀状を出している。書くことが難しい場合は職員が代筆するなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるような装飾に努めている。整理整頓を行ったり家庭的な生活感を感じて頂けるように取り組んでいる。壁の装飾と一緒に作ったり飾り付けを行うようにしている。	玄関を入ると、それぞれの担当者との2ショットの笑顔の写真が掲げられている。吹き抜けのあるリビングは、明るく自然な光が差し込んでいる。折り紙で作ったサンタさんやクリスマスツリーが飾られ季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好みに合わせた雑誌等を配置し好きな時に読めるようにしている。利用者様同士の相性を考慮した食席にしており、気の合う方同士が談笑されたり、思い思いの場所で好きなことをしながら過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状況に合わせ居室を整備している。使い慣れた家具等を持参頂くよう声掛けに努めている。	テレビ、タンス、机、椅子、化粧道具等持ち込んでいる。自作の貼り絵、家族や好きな猫の写真を飾った居室で、好きな本を読んだり、日記を書いたり、新聞を読んだり、鏡を見て化粧をしたりして過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は自宅で過ごしていた頃の環境を伺い参考にしている。共有スペースはその方の身体機能に配慮しながら安全を第一に環境整備に努めている。		